



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2629 号 2015.9.10 発行

ワタミ介護事業売却検討 損保ジャパン日本興亜、軸に 朝日新聞 2015年9月10日
 居酒屋チェーン大手のワタミが介護事業を売却する方向で検討していることが分かった。損害保険大手の損保ジャパン日本興亜ホールディングスなどを軸に買収交渉が進んでいるとみられる。

介護事業に参入したワタミは、首都圏を中心に介護付きの有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅事業を展開している。だが、主力である居酒屋チェーン「和民」で売り上げが伸び悩んでいるほか、介護事業も苦戦している。経営合理化の一環として、不振の介護事業の売却を検討しているものとみられる。

ワタミの2015年4～6月期決算は営業損益が9億円の赤字。純損益が15億円の赤字で、いずれも前年同期の赤字幅から拡大し、1998年の上場以来、過去最悪だった。

i P S活用、高橋政代氏受賞

朝日新聞 2015年9月10日

米サンフランシスコのグラッドストーン研究所は8日、再生医療の研究者を対象に創設した「オガワ・ヤマナカ幹細胞賞」を、高橋政代・理化学研究所プロジェクトリーダーに授与すると発表した。

i P S細胞からつくった組織を世界で初めて人に移植した業績が評価された。同賞は今回が1回目で、副賞は15万ドル。授賞式は16日、グラッドストーン研究所である。

現場から 蒲郡 「再生医療の街」へ

中日新聞 2015年9月7日



J-T E Cが8月に開催したワークショップ。皮膚に見立てたティッシュの移植を親子連れらに体験してもらった＝蒲郡市生命の海科学館で

蒲郡市は、官民一体となって「再生医療」に本腰を入れ始めた。蒲郡市民病院が7月、自治体病院としては初めて、再生医療の計画を審査する「特定認定再生医療等委員会」の認定を国から受けた。市内には再生医療ベンチャーが本社を構え、8月末に市内で「再生医療サミット」を初開催した。再生医療の枠にとどまらない官民の狙いがある。(木村尚公)

■鍵はJ-T E C

温泉ホテルの会場は熱気を帯びていた。8月29、30両日、企業や大学で再生医療に携わる約90人が集まった「再生医療産業化サミット」。活発な意見交換があり、締めくくりには「再生医療の安全性を適切に確保する」などとする「サミット宣言」も採択した。

サミットの実質的な旗振り役は再生医療ベンチャー「ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング(J-T E C)」(蒲郡市三谷北通6)。榎原規生事業開発室課長(43)は「サミットは研究者が発表する学会とは違う。会場が一体となって再生医療を前進させようとい

う、かつてない議論ができた」と成果を口にする。

なぜ蒲郡で「サミット」が開催できたのか。なぜ市民病院が全国初の認定を受けることができたのか。答えはともにJ-TECに行き着く。

1999年に、地元の眼科医療機器メーカー、ニデックが母体となって創業。国内では唯一、自家培養皮膚と軟骨などの再生医療製品を販売している。

小沢洋介社長（51）は「国内でリアリティーを持って再生医療ビジネスをしているのは当社だけ」と語る。

昨年11月に「再生医療等安全性確保法」が施行され、「安全性」の観点から、再生医療の実施計画を民間病院などで審査する仕組みができた。

蒲郡市民病院がその認定を受けるよう、働き掛けたのはJ-TECだ。「蒲郡を再生医療の街に」（稲葉正吉市長）と市側が即決で応じるなど、民が官を動かす形でプロジェクトは始まった。

■それぞれの思惑

赤字決算が続いているJ-TECは、地元蒲郡を突破口に再生医療そのものを普及させ、業績好転をもくろむ。小沢社長は「市民病院で再生医療が定着すれば、県外、海外からも患者が集まる。売り上げに結び付く」と語る。

蒲郡市民病院は、「医師不足」解消の切り札になると期待する。

現在の常勤医師は415人。河辺義和院長は「市民病院が力を入れ、再生医療が身近になる。患者を救うことにつながる」と前置きしたうえで、「あと10人は医師を増やしたい。再生医療で差別化を図ることができれば、大学側へのアピール材料になる」。

さらに看板産業の観光が停滞している市。井沢勝明副市長は「『再生医療の街』と認知されれば、新たに進出しようという企業も出てくる」と期待する。

■年内にも治療開始

早ければ年内にも1例目となる再生医療（皮膚）の審査、手術が行われる。

J-TECや市は、専門家を招いての市民向けセミナーや、市内の子どもらを「日本再生医療学会」に派遣することを計画する。極めて個性的な「再生医療の街」として、蒲郡は再生（活性化）できるか。

再生医療 失われた組織や臓器を再生し、その機能を回復させる医療。J-TECでは患者本人の細胞を用いた自家培養皮膚と自家培養軟骨などを製品化している。拒否反応などのリスクを抑えられるメリットがある。体のさまざまな細胞に変化させられる人工多能性幹細胞（iPS細胞）の活用も期待されている。

異常タンパク感染か アルツハイマー病で英研究 共同通信 2015年9月10日

アルツハイマー病を引き起こすとされる異常なタンパク質「アミロイドベータ」が、30年ほど前まで使われていた成長ホルモン製剤の投与で人から人へ感染していた可能性がある。英国のチームが9日付の英科学誌ネイチャー電子版に発表した。

製剤は、人間の遺体の脳下垂体から抽出して作られたもので、低身長の子などに投与されていた。しかし、混入した異常プリオンによる神経難病のクロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）の報告があり、使用が中止された。

英チームが今回、製剤の投与を受けたことがあり、CJDで死亡した36～51歳の患者8人の脳を調べると、6人にアミロイドベータが沈着。

酒・たばこ年齢引き下げ「容認しがたい」 日本医師会 朝日新聞 2015年9月10日

飲酒と喫煙を18歳から認める提言を自民党が検討していたのを受け、日本医師会の横倉義武会長は9日、「医療の専門家団体として容認しがたい」として、提言案を撤回するよう稲田朋美政調会長に直接申し入れた。提言案に対しては、党内でも反対論が相次いでい

る。

横倉会長が9日の記者会見で明らかにした。会見で、未成年の喫煙習慣が発達中の脳に悪影響を与えるという研究例などをあげ、「国民の健康の維持増進の視点から断じて容認できない」と指摘。たばこや酒の健康被害を防ぐ政府の取り組みにも「逆行する」と訴えた。

また、日本医師会が事前に意見を求められなかったとして、「健康に強く影響を与える政策については、あらかじめ医療関係者の意見を聞いて頂くべきで、遺憾な面がある」と不満を述べた。「強行するならば、医療界をあげて反対運動をしなければならない」とも話した。(竹野内崇宏)

酒・たばこ18歳解禁提言は撤回 自民チーム 朝日新聞 2015年9月10日

自民党「成年年齢に関する特命委員会」(委員長=今津寛衆院議員)は10日、来夏の参



院選から選挙権年齢が18歳以上に引き下げられることを踏まえた政府への提言案をまとめた。飲酒や喫煙を18歳から認めることについては、反対意見が多かったことから、「妥当」としていた当初案を撤回。事実上の両論併記にとどめた。

自民党の「成年年齢に関する特命委員会」と関係部会の合同会議であいさつする今津寛委員長(左奥)=10日午前9時7分、東京・永田町の党本部、飯塚晋一撮影

提言案では、飲酒や喫煙を18歳から認めるかについて「引き続き社会的なコンセンサスが得られるよう、国民にも広く意見を聞きつつ、医学的見地や社会的影響について慎重な検討を加える」との表現で決着した。当初案では、民法改正で成人年齢を18歳に引き下げること求めるため、「大人になった18歳が飲酒・喫煙を制限されることは適当ではない」としていた。

これに対し、党内から「医学的な影響を慎重に検討すべきだ」などの反対論が続出。日本医師会も「容認しがたい」として、稲田朋美政調会長に撤回を申し入れていた。10日の会議でも「両論併記もおかしい。反対意見が多いのだから、『反対』と明記すべきだ」との意見が出た。提言は月内に政府へ提出する。

「小4の壁」どう乗り越える 子供の生活、ルールと工夫

日本経済新聞 2015年9月10日

子育て奮闘中のパパライターの「学童についての素朴な疑問」を探ります。今回は、学童を卒所した直後の「小学4年生」というタイミングにフォーカス。公設学童に子どもを通わせている(または、通わせていたことのある)ワーママが集まり、「小4の壁」について本音で語りました。

<座談会参加者プロフィール>

横山弘子さん(仮名):千葉県浦安市在住の中3女子と中1男子の母。浦安市の学童は夜7時まで延長料金なしで預かってもらえる。さらに小4まで登録が可能と恵まれた環境で、「小4の壁」というよりも「小5の壁」を経験。2人の子どもは中学受験をして私立中学に通っている。PR会社勤務。

川上桐子さん(仮名):神奈川県横浜市港北区在住の中1女子と小2男子の母。長女は小学校から遠い、父母が運営する公設学童に通わせたが、下の男の子が小学校入学時に民間学童が学校近くに開設されたため、そちらに通わせつつ、1年後には二度目の「小4の壁」を経験することになる。外資系メーカー勤務。

片山里奈さん(仮名):東京都文京区在住の中2男子の母。3年間、公設学童に通わせた後、「小4の壁」を前に「小4の壁を乗り越えるためのコミュニティ」を設立しようかと真剣に考えるくらいに心配していたという経験を持つ。広告代理店勤務。

DUAL編集部 「小4の壁」の第一関門は、春休みを朝から晩まで一人で過ごさせることだと伺いましたが、どういった工夫をされましたか。

片山 息子が保育園時代から仲の良い男の子がいて、そのお母さんもフルタイムで働いていました。それで母親同士で相談して、必ず午前中はどちらかの家で遊ぶようにさせたんです。

片山里奈さん（仮名）

春休みも夏休みもこの作戦で行きました。午前中は2人で何をして遊んでもいいとして、昼ごはんはどちらかの家でご飯を炊く。おかずは持参する。昼ごはんを食べた後は、そのまま一緒に遊んでもいいし、それぞれに遊びに出てもいいよ、と。



最初はそれでうまくいっていたのですが、小4ともなれば遊ぶ相手もだんだん変わってしまいます。また、お互いの家族の旅行などの予定も入ってしまい、8月からは都合がつかなくなったり…。結局、そのやり方は自然消滅してしまいましたが（苦笑）。

そのころを境に他の子と遊ぶサイクルが子どもなりにどんどんできていったようで、思いの外、スムーズに立ち立っていったと言いますか…。親が思うよりは早く「自分一人の生活」に順応してくれました。4年生の夏休み後半からはそうなったので、もう5年生以降の長期休みは“放ったらかし”で大丈夫でした（笑）。

—— 宿題はやっていましたか。

片山 やってましたね。午前中、「自宅にいる時間にやっておきなさい」と言っておいたので。ただ、文京区では、ほとんどのご家庭が中学受験をさせるんです。うちみたいに「中学受験しません」って公言する家はほとんどなくて（笑）。

周りの友達はみんな塾に行っていて、塾の宿題がある。そのために学校の宿題があまり出ないんです。子どもにしたらラッキーなんでしょうけれど（笑）。

■ 誰かのお宅に遊びに行くときのルールは「お菓子一袋持参」

—— おやつはどうしてましたか。 親の目が無いと際限なく食べてしまうという話を聞いたことがあります。

片山 息子は痩せ形なので、むしろもっと食べてほしいくらいです。それでもおなかをすかせてしまったらかわいそうなので、いつもお菓子はいっぱい置いてあります。

川上 お菓子に関しては家の中というよりも、外でのルールのほうが色々ありますよね。

片山 そのあたりは親同士があまり知らない関係だと、ルールが分からないので不安ですよ。もしかしたら、そんなルールがあるのかもしれないけれど、実際のところはよく分かりません。

知っているお宅であれば気軽に情報交換もできるし、後から「今日はお世話になったみたいで」などと、何かお菓子を持っていくこともできるんですけどね。

川上 ウチのほうでは専業主婦ママ同士で、自分の子どもが誰かのおうちにお邪魔するときには「少なくともスナック菓子を一袋持っていく」といったルールがあったみたい。なのでうちでもいつもスナックの袋菓子を用意しておきました。うちの子はあまり食べないんですけど、遊びに行くための。

一同 へえ～。そんなルールがあるんですね。

川上 働いていると、そういう「ローカルルール」に疎くなりやすいと思います。私の場合、保育園で知り合っていたお母さんが退職して専業主婦になっていて、その方から教えてもらえました。

確かに、私がお仕事を休んだ日に子どものお友達が遊びに来るときには必ずスナック菓子を一袋持ってくるので「なんでだろう」と思っていました（笑）。

■ 「ママが帰ってこない！」とパニック、学童に飛び込んだ息子

—— 他にお子さんがお一人で1日を過ごすようになってからのトラブルがあったら教えてください。

片山 私が気づいてないだけなのかもしれないのですが、特にはありません。息子にとって私は怖い存在のようで、いまだに反抗的な態度を取っても、最後には言うことを聞いて

くれます(笑)。そういうこともあって毎日 18 時にはきちんと家に帰っていましたし、悪さをするといったこともありませんでした。

あ、そうそう。一度だけですが、カギをどこかに忘れてきてしまって、2階の開いている窓によじ登って家に入ったということがありました。

あと、これはまだ学童に通っているころの話ですが…。家の最寄り駅に着いたタイミングで、私はいつも「今から帰るね」って電話を入れていたんです。その後でママ友にバッタリ出会うって話し込んでしまったところ、いつまで経っても私が帰ってこないのが不安になった息子が泣きながら「ママが帰ってこない！」と学童に飛んで行ってひと騒動ありました…。それ以来、私はすぐに帰宅するように。小4以降は、ちょっと遅くなくても息子がパニックになるようなことはありませんでした。

■ケータイを持たせる不安、持たせない不安 横山弘子さん(仮名)

横山 私も子ども達が小学生の間はケータイを持たせていなかったの、学童から一人帰りするようになってからは「18時までには帰宅する」と約束して、18時には家に帰宅確認の電話をするようにしていました。



忙しい時期になるとその電話を忘れてしまうこともありましたが、何か「子ども達のリズムが乱れていそうだな」と感じる時には抜き打ちで電話をしていました。

ケータイを持たせない家の問題点としては、友達からケータイを借りることが出てくる。「それは相手のご家庭に迷惑だから注意しておかなければ」と感じていました。

ウチの場合は東日本大震災の後に、緊急の連絡が取れないと怖いということでケータイを持たせることにしたのですが、親以外はすべてブロックしています。やはり女の子ですし、ケータイにまつわるトラブルも多いと聞くので、親以外とは連絡取れないようにと。

—— ケータイを持たせるかどうかは親にとって大きな課題だと思います。どういったトラブルがあるのでしょうか。

川上 やはりメールのトラブルですね。特に女の子同士の悪口メール。上の学年のお母さんから聞いた話ですが、「明日からは〇〇ちゃんはシカトね」といったメールが回ってきたことが実際にあったみたいです。

—— 小4にもなるとケータイを持つ子どもも増えるものなのでしょうか。

川上 お姉ちゃんが小4のときに震災があったので、震災を境にケータイを子どもに持たせる家庭が一気に増えた感じがします。みんな震災時に子どもと連絡が取れなくて不安だったという経験をしているので。ウチの地域も確かに女の子にはケータイを持たせる率は高いですね。

横山 習い事や塾通いをきっかけに、というパターンも多いですね。中学受験する子どもは4年生くらいから塾に通って一人で行動する範囲が増えるし帰りが遅くなるので、防犯の意味で。ウチも塾通いをきっかけにケータイを持たせました。

—— 防犯の意味で持たせようとする一方、メール問題などもあって悩みどころですね。

川上 ウチの場合も、メール問題などがあって親以外はブロックしてメールのやり取りができないようにしていました。でも、家庭によってはネットも見放題だったりします。同様に家のパソコンも全くロックが掛かっていない子もいるわけです。

そうなると、その子どもの家に集まってネットサーフィンしたりすることになる。もともとは何かを調べるつもりだったのかもしれないけれど、そういう緩いおうちもあるので、4～5年生くらいになると、家庭によってかなり差が出てくることになるので、親が注意を払う必要性が出てきます。

■娘に「ウチは他の家よりずっと厳しいけれど、結果的に良かった」と言われ涙

—— 最近の子ども達の間ではLINEなどが問題視されていますが、やはりネットやSNSでのトラブルには気を使ったほうがいいですね。

川上 ウチの場合は中学生になるまでケータイは持たせていませんでした。ガラケーなのでLINEはやっていません。つい先日、中1の娘とケータイについて話をしていたら「ウ

チはそういう面では他の家よりすっごい厳しいけれど、結果的に良かったと思う」って言うてくれたんですよ。

スマホを制限なく使っている周りの友達は、何かしらのトラブルに巻き込まれやすいみたいです。やはりメール関係のトラブルが多いようで。「メールというのは大人でも誤解が生じやすいのに、ましてや子ども同士だともっと誤解が生じるから気を付けなさい」と言い続けてきたんです。そういう流れもあって、娘が「ママが言ったことが最近になって分かるようになった気がする」って言われて、うれしさのあまり泣きそうになりました(笑)。

—— 川上さんは「小4の壁」を前に、実家のお母さんにサポートをお願いしたと聞きましたが、そのあたりについてお聞かせください。

川上桐子さん(仮名)

川上 はい、千葉在住の母親に曜日を決めてサポートをお願いしていました。まずは子どものお友達がわが家に遊びに来られる曜日を確認して、その曜日に母に来てもらって、子どもの一人帰りの練習をさせてもらいました。そして子どもの友達が遊びに来たときに、母に対応してもらっていたんです。



子どもってずっと学童通いだけだと、その他の世界を知らないわけですね。だから、学童を卒所したら「毎日、友達と遊べるんだ」と勘違いしている。実際はみんな習い事で意外と忙しいのに。

友達同士のスケジュールを知って、リズムをつかんでいく。そこに結構時間がかかったような気がしています。

—— 女の子は「約束をしないと友達と遊べない」といった話もよく聞きますが、そのあたりはいかがでしょうか。

川上 確かに女の子はそうかもしれません。例えば「今日遊ぼうね」って約束しようとしても、相手が先に誰かと約束していたら遊べないんです(笑)。一緒に下校するお友達とのお約束も同様です。

学童に通っている間に、学童以外の子ども同士の世界が出来上がっている。その辺の都合が最初は全く分からないから、それに最初は慣らしてあげるようにするのがいいのかな、と。そこは親である私も全く考えていなかった部分でした。たぶん、男の子の場合はそういったことはあまり関係ないかもしれませんが。

—— お姉ちゃんも習い事をしていたんですか。

川上 保育園のときから土曜日だけバレエを習っていました。小3からは、横浜市では時給800円くらいでシッターさんを頼める制度があったので、それを利用して平日も含めてバレエのレッスンを週2回に増やしました。小4の終わりごろからは、塾にも行くようになりました。

バレエ教室には隣駅まで電車に乗って行くので、シッターさんに送り迎えを頼んでいたんです。付き添いをおばあちゃんに頼もうかとも思ったんですけど、千葉からだとも来てもらうだけで2時間くらいかかる。母にお願いするのはなるべく最小限にしていました。

■小3の夏から塾へ。放課後、家でおやつを食べて一人で出かけさせた

—— 他に「小4の壁」という意味でポイントとなることはありますか。

横山 私自身、中高一貫校の出身だったので、お姉ちゃんるときは「本人が希望するなら受験をさせようかな」って考えていたんですね。保育園や学童でも一緒に、クラスでも仲の良い友達が小3になったときに塾に通い始めたんです。

すると娘も「自分も行く」と言い始めて、小3の夏期講習からスタートして、週3回塾に通うようになりました。仲の良い友達と一緒に、学校の延長線上みたいな感じだったし、親としては「一人で帰って家でテレビを見ているよりは勉強してくれてるほうがいいし、受験しなかったとしても何らかの力にはなるだろうから」と。

その塾はたまたま、住んでいるマンションのすぐ隣の商業ビル内にあったんです。学校の6時間目が終わると16時くらいに一度帰宅しておやつを食べて、17~19時まで塾。塾が終わるころには私も帰宅できるので、ちょうどわが家の時間の流れにも合っていたんです

よね。仲良しの友達と一緒に勉強もできるので、本人も喜んで行っていましたから、割とスムーズでした。学童は小4いっぱいまで在籍はしていましたが、夏休み以降はほとんど行かなくなっていましたね。

—— 塾に行くときなどは16時に帰宅して、そのまま無事に行けたんですか。

横山 おやつを置いておく場所を決めて、自分で食べたいものを食べてから出かけるように、と伝えていました。一人帰りをする日は「おかえり。手洗い・うがいをきちんとしてから、おやつを食べてね!」といった手紙を書いていましたね。

一同 ふ～ん、偉いなあ～。

横山 やっぱり「おかえり」って言ってあげられないっていうのが今でも自分のなかでは「罪悪感」とまではいかないにしても、心苦しいところではあるんです。だからいつもテーブルの上に手紙を置いていました。

それで、私が帰ってきたときに「今日はあまりおやつ食べてないな。時間が無かったのかな?」と思うと、後で「メロンパン食べてなかったけど、時間無かったの?」と聞いたり。「うん、放課後に友達とおしゃべりしてたら時間が無くなったからすぐに塾に行ったんだ」とか、会話のきっかけにもなります。

2人とも中学生になってからは、自分も仕事が忙しくなって。手紙を書けない日もあるので、そういうときには「おかえり!」とだけ書いた紙を置いて出掛けるようにしています(笑)。私が残業で遅くなったときに子ども達からメッセージが残っていたりするんです。「今日はこんなことがあったよ」とか「ママ、おやすみ」ってひと言書いてあったりとか。そういうことで少しだけでもわが家の様子が分かったりして温かい気持ちになれます。

片山 ウチの場合は中学生になってからは息子とLINEをやっています。スマホを家族全員が持つようになったので、ほぼ毎日LINEでやり取りをしています。

川上 LINEでやり取りしていて親子ゲンカになると、子どもが親をブロックするっていう話を聞いたことがあります。女の子なんですけれど、母娘ゲンカのたびにブロックされて大変だってお母さんが言っていました(笑)。

片山 ウチの息子は、ブロックした後の私の反応が怖くてやらないと思いますけど(笑)。



國尾 一樹 フリーライター。小学館の学年誌にてライター活動を開始し、その後、主に『週刊SPA!』にて幅広いジャンルの特集記事、ルポ記事などを取材・執筆。ベネッセの『こどもちゃれんじ ぼけっと』の親向け冊子にて、パパ向け子育て情報連載『オトコマエ育児』を担当。「自称イクメンライター」として、各ジャンルの子育ての達人に子どもとの接し方の極意を伝授してもらう。世田谷区から目黒区の認可保育園への転園を何とか果たした6歳の娘の送りは毎朝欠かさず、「育児は育自」を motto に毎日、娘から学ぶ日々を送りつつ、目黒区「子ども施策推進会議」にて保育園

利用者の委員として参加。

社説：消費税負担軽減／財務省案には課題が多い

神戸新聞 2015年9月10日

消費税率を2017年4月から10%に引き上げる際に導入される負担軽減策の財務省案がまとまった。与党が本格的な議論を始める。

財務省案は、酒を除く飲食料品(外食を含む)に一律10%を課し、その後で2%分を還付する。還付額は低所得層の1人当たり年平均食費20万円の2%に当たる年4千円程度を上限とする。買い物にはマイナンバー制度の個人番号カードを携帯し、端末にかざせば購入額の2%分がポイントとしてたまる。マイナンバーを使ってネット上で還付申告すれば、銀行口座に振り込まれる仕組みだ。財務省は軽減税率に代わる案として「日本型軽減税率制度」と名付けているが、似て非なるものと言わざるを得ない。

軽減税率は、食料品など生活必需品の税率を低く抑え、消費者は税負担の軽減が実感しやすい。一方で事業者は複数税率が混在するため事務が複雑になりコストも増える。対象品目の線引きが難しい面もある。

自民、公明両党は軽減税率の導入で一致したが、業者側の納税事務の負担が重いことな

どから議論が難航した。麻生太郎財務相は「複数税率を入れるのは面倒くさい」と発言したが、欧州で実施しているのに、なぜ日本ではできないのか。

財務省案は買い物する際の負担感は減らないため、買い控えを招く恐れがある。消費者の手続きが煩雑で、還付を申告しないケースが増える可能性もある。

最大の懸念はマイナンバーを利用することだ。買い物のたびに個人番号カードで本人確認され、その記録が国に把握される不安がある。カードを紛失したり、サイバー攻撃で個人情報漏えいしたりするリスクもつきまとう。

他にも課題は多い。購入時に毎回個人番号カードをかざす煩わしさ▽カード普及が制度導入に間に合うのか▽膨大な数の小売店に端末をどう行き渡らせるのかなどが指摘されている。こうした問題点をどう解消するか、丁寧な説明が要る。

導入が迫っているのに認知度が低いマイナンバーへの抵抗感を弱め普及を促す意図も透けて見える。果たして国民の理解は得られるのか。来年の通常国会で関連法案を成立させたい考えだが、政府、与党は拙速を避け、慎重に議論すべきだ。

論説：マイナンバー制度 内容の周知、対応を急げ 佐賀新聞 2015年09月10日

国民一人一人に番号を割り当てるマイナンバー制度で、10月から個人番号の通知が始まる。来年1月から運用されるが、制度の内容が十分に理解されているとは言い難い。企業などの準備も遅れており、トラブルが発生しないように制度の周知と対応を急ぎたい。

マイナンバーは12桁の個人番号で、国や自治体が管理する情報を共通の番号で照合できるようにする。脱税や年金不正受給の防止などに役立ち、行政の効率化や国民の申請手続きの簡素化につながるとされる。

内閣府が3日に発表した世論調査では、制度の内容を知らない人が5割を超えた。同日に成立した改正法では2018年から預金口座にも任意で番号が適用されるようになっており、金融資産の監視が強まることへの反発や不安もある。政府は導入の目的を含め、丁寧な説明で理解を得ていかなければ信頼は広がらない。導入に当たって、負担が大きいのは企業だ。来年1月以降、非正規を含む従業員と扶養家族の個人番号を確認した上で、収集・管理しなければならない。取り扱いについては個人情報保護法で厳格な保護対策が求められ、罰則も強化されている。

東京商工リサーチが6～7月に実施した全国調査では、システム改修などの準備を終えた企業は2・8%にとどまっており、佐賀県内でも対応が遅れている企業が多いようだ。県内では現在、企業向け説明会が各地で開かれているが、「本人確認など求められる作業が多すぎる」「想像していた制度の内容と実際の運用の大変さにギャップを感じている」などの声が聞かれる。政府には、情報提供や助言など積極的な支援を求めたい。

年金情報の大量流出問題で、情報管理に対する国民の不安と不信が膨らんだ。マイナンバーと結びつける個人情報行政機関ごとに分散して管理するため、政府は番号を通じて複数の情報が芋づる式に漏れる恐れはないとしている。ただ、サイバー犯罪は巧妙化しており、想定を超える新たな手口が出てくる懸念は消えない。

スタート時のマイナンバー活用は税金、社会保障、災害関連の3分野を中心とした行政手続きに限られているが、消費税引き上げに伴う還付金の事務処理への活用など、政府は拡大を視野に入れている。利用範囲が広がれば利便性が高まる面もあるが、情報流出などの危険性も増す。拡大するには情報管理の状況や国民の意向などについて慎重な見極めが必要だ。一方で、利用する側も適用分野以外では番号を知らせないなどの自己防衛を徹底したい。早くも制度をかたって預金口座などの個人情報を聞き出そうとする事案が起きており、注意は怠らないようにしたい。(大隈知彦)



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行